

暑いですね。日曜日というのに真夏の団地には人っ子一人、流石に猫も歩いていません。ただただNHKの昼の憩いの音楽が、かったるく流れているだけです。

炎昼や 団地の中の 時止まる

今日はお休みです。蝉時雨のシャワーを浴び乍ビールでも飲みますか。尤もアル中の私は冷酒派ですが。

カナカナや 瀬音重ねて 奏でおり

塩なめて 冷酒の腹に 染みにけり

今月と来月は従来の流れがありますので、ゲストスピーカーを予定しています。

今月はアフリカ コートジボアールのアルバンさん。現在神戸大学大学院経済研究課博士課程終了、母国が内戦に巻きこまれ帰国が難しい為、何とか日本で就職しようと努力されていますが、答えは出ていません。ビザの残留期間も後僅かとなってしまいました。

先月の豊島さんのお話にあった様に、明治以降先の大戦迄の行為に対して色々責められている日本ですが、ユダヤ問題にしても、アフリカ・アジアの植民地の問題にしてもそれらを引き起こした侵略行為の先輩の欧州が何の責任も取らず責められず、現在もそれが原因で多くの殺戮が続いている事に不思議な感を否めません。

時々その道の名手の先達から日本の殖民政策を非難された段には、お宅のバイブルは一体どうなっているの、日本の聖書と内容が違うのかしらと嫌味の一つも言いたくなります。現在も続いているアフリカの悲劇は其の中でも最たるものでしょう。何故内戦が起こっているのか。権益を維持したい旧宗主国の邪悪な行為が裏に隠されているのでしょうか、それらはなかなか表に出てきません。教育の機会を奪われた無知なアフリカ人に代理戦争をさせているように見えます。答えを単純化すれば国境問題です。

由来農作に適した広大な土地を持ち、資源の豊かなアフリカには、多くの部族が大らかに生活していました。そんな処に工業の発達していた欧州が、資源の収奪とプランテーション型殖民政策で乗り込んできたのです。最悪の悪行は侵略者達が侵略者同士の争いの結果、その力関係で、まるで定規でひいたように国境を勝手に決めてしまった事です。

本来なら一つの部族がまとまって生活していた処に勝手に線を引くものですから、部族はばらばらになります。まったく違った部族と国を作ります。多い方が自分たちの有利な政策を採用します。当然もめる訳です。多数派工作は我々の周りにも常に見るところです。そこに地域色が加わります。阪神気違い(この言葉パソコンで変換できませんでした---使用禁止用語なのでしょう)、中日気違いと同じ事です。更に旧宗主国・武器商人の利害が重なります。「教育問題」こそアフリカの内戦を解決するキーワードかもしれませんが、この解決には数十年を要します。外部の利益が大きいので、一箇所で紛争が落ち着いても又別の場所だと、まるでもぐらたたきの様に内戦が次々勃発するかと思うと、居たたまれないのは私丈ではないと思います。

今回はこの当たりのお話と、日本人の黒人差別の問題、日本の素晴らしい点等について、ざっくばらんに忌憚りの無い意見を拝聴します。